

# きらボ通信

創刊号 (2008年11月)

明星大学ボランティアセンター (愛称: きらきらボランティアセンター)

特集: 夏の学生ボランティア活動報告会 ~ 出会い、ふれあい、そして学びあい ~

めばえの会 (森山 聡) / 教育研究部 (戸倉裕介) / 緑の保全活動 (嶋田誠文) / Idear 研究会 (坪内大二郎) / ひまわり (中村翔子) / コメント「夏の活動報告会に参加させていただいて」(枝村珠衣・市民活動センターたちかわ) / まとめ「学生ボランティアに期待すること」(渡戸一郎・センター長)

\*\*\*\*\*

## 明星大学ボランティアセンター開設のご挨拶

明星大学学長 小川哲生



\*\*\*\*\*

今年、創立 85 周年という記念すべき年を迎える学校法人明星学苑は「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」という変わらぬ建学の精神を貫いています。「世界に貢献する」という大目標に向かって前進するためには、先ず身近な社会に向かって貢献をするというチャレンジ精神が大切と考えます。

明星大学では、大学の創設当初から地域社会に貢献するという実践教育の文化が育まれてきており、教育研究部や初等教育研究会どろんこの会をはじめとする多くの団体や個人有志の皆さんが各種のボランティア活動を熱心に継続して下さって来たという誇るべき歴史があります。

明星大学ボランティアセンターは、このような良き文化をさらに発展充実化することを目的

に今年5月に発足致しました。ボランティアに関する先進大学としては、立教大学や明治学院大学などが有名ですが、多摩地区の大学でのセンター組織の開設は先駆的な決断であり、地域社会からも大きな期待が寄せられています。社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩が募集する「学生教育ボランティア」や聴覚障害学生をサポートする「ノートテイク」の講習会にも積極的にチャレンジする学生の姿が目立ち始めており、大変頼もしく思います。

世の中に夢と希望を降り注ぎ明るく輝く『学天の明星』の如く明星大学のボランティアの輪が大きく広がり続けることを強く期待しています。

\*\*\*\*\*

## ボランティアセンター(略称:きらボ)開設に当たって

センター長 渡戸一郎

(人文学部人間社会学科教授)



\*\*\*\*\*

近年、現代の若者や大学生は、情報社会の渦の中で親しい仲間とだけ小さくまとまり、社会との健全な結びつきを失いつつあるのではないかという危惧の声が聞かれます。また一方で、大学の社会貢献への要請も高まりつつあります。

そうした中、「明星大学に学生のためのボランティアセンターが必要ではないか」という教職員有志の提案に基づいて、センター開設に向けた検討が始まったのは2006年秋のことでした(委員長は人間社会学科の垣内国光教授、事務局は学生課)。

私を含め、各学部から委員が参加し、センターの位置づけ、機能、運営体制などに議論を深めると同時に、他大学のボランティアセンターの情報収集や見学を実施し、「提言」をまとめて学長に提出したのが2007年3月。そこでは、センターの目的を、「本学が有する知識・技術・人材等を活用して、学内外から要請される福祉・教育・環境・災害等のニーズに対し、ボランティア精神をもって積極的に応え、社会貢献すること」とすることになりました。

また、センターの愛称を、「明星」の“星”にあやかって、「きらきらボランティアセンター(略称:きらボ)」にすることも決まりました(小さいながらもきらっと輝くボランティアな活動を支援するセンターを目指すという意味もあります)。

その後、予算措置等の手続きなどの準備期間を経て、本年5月、日野校の学生会館2階に当ボランティアセンターが開設された次第です。

なお、青梅校にもボランティアセンターの部屋が開設されました。まだ専任職員はおりませんが、日野校ボランティアセンターと連携して活動していきます。

当ボランティアセンターの活動内容は後掲のような5つの柱から成っています。しかし開設後間もないため、学内ボランティア団体などを中心に学生に呼びかけて、センターの利用や活動の充実を少しずつ図っているところです。この創刊号の特集「夏の学生ボランティア活動報告会」はその一端のご報告です。

また、近隣地域のボランティアセンター等との連携を図るため、センター長と職員でご挨拶回りをし、ネットワークづくりを進めています。その結果、当センターに登録してボランティア募集情報を提供してくださる団体等も、順調に増え、大変感謝しております。

センターには、情報コーナーのほか、気軽にミーティングなどに利用できる談話コーナーや、ボランティア情報を検索できるパソコンも設置しています。ボランティア関係図書資料も収集・配架し始めました。また、車いすの体験もできます。

当センターでは、学生のみならず、教職員、近隣の地域や学校などの利用も積極的に受け入れていきますので、少しでも多くの方に利用していただければ幸いです。

最後になりましたが、当センターの今後の活動や運営について、皆様のご支援ご助言などを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 明星大学ボランティアセンター（きらボ）の活動内容のご紹介

明星大学ボランティアセンター（愛称：きらきらボランティアセンター、略称：「きらボ」）は、本学が有する知識・技術・人材等を活用して、学内外から要請される福祉・教育・環境・災害等のニーズに対し、ボランティア精神をもって積極的に応え、社会貢献することを目指しています。ここでは、当センターの活動内容をご紹介します。

### 1．ボランティア募集の情報を提供しています。

ボランティアセンターには、多摩地域を中心に全国各地からボランティア募集情報がたくさん届きます。福祉・教育・環境保護・まちづくり・国際協力など、分野もさまざまです。また、ワークショップや講演会・映画会などのお知らせも来ます。センターの掲示板で、これらの情報を閲覧できます。

### 2．ボランティアに関する相談を受けつけています。

ボランティア活動の探し方、参加するに当たって不安なこと、よくわからないこと、注意点など、センターのスタッフが相談にのります。気軽にご相談下さい。

### 3．ボランティア活動をしている学生の支援をしています。

ボランティア活動をしている学生や学生団体に対して、相談や交流、活動発表会などを通じて、支援しています。また、センターの学生ボランティアスタッフとしての活動の場を提供しています。

### 4．ボランティア活動に関する講座やセミナーなどを開催しています。

各種ボランティア講座（ノートテイクボランティア講座を含む）を企画・開催したり、地域におけるボランティア活動プログラムを企画・実施します。

### 5．近隣の地域や学校などとの連携・協働を推進します。

地域のさまざまなボランティア・市民活動団体、施設・学校などとネットワークを構築し、さらにボランティアセンターなど中間支援組織と連携・協働していきます。

## 特集：夏の学生ボランティア活動報告会2008

～出会い、ふれあい、そして学びあい～

去る10月2日(木)18時から、当ボランティアセンターで「夏の学生ボランティア活動報告会」が開催された。当日は学生19名、地域の方々7名、学長・副学長をはじめとする教職員14名が参加し、車座になってなごやかな雰囲気の中、5つの学生団体の活動報告に耳を傾けると同時に、意見交換が行われた。また、最後に、市民活動センターたちかわの枝村珠衣さんから暖かい励ましのコメントを頂戴することができた。



今回は当日報告してくれた学生ボランティア団体の方に改めて報告をお願いし、特集とした。

### 一緒に楽しい時を過ごす

めばえの会 森山聡(人間社会学科3年)

#### めばえの会について

私たちめばえの会とは、初めての方でも気軽に参加できる雰囲気作りに努めており、ハンディキャップを持った人たちと一緒に楽しい時を過ごすことを目標にしているサークルです。主に日野、府中で週末に活動し、定期的な活動はプリズムクラブ、竹ん子、夢ふうせん、訪問学級という4つの活動に分かれています。

今回の活動報告会では、その中で夏休みに行った竹ん子のキャンプと訪問学級の移動教室について紹介させていただきました。まず、竹ん子とは月に一度日曜日に活動しており、車椅子で日常生活を送っている9歳～30歳代までの10人の方たちとお出かけなどを行っています。今回の活動では鎌倉までお出かけをしてきました。この日は大変暑かったのですが、各々家族にお

土産を購入したり、鶴岡八幡宮などの観光名所に足を伸ばしたりと思い思いに鎌倉を満喫されていたようです。私たちボランティアも竹ん子の方々と交流をより深められ、充実した旅行になりました。

もう一つの訪問学級とは、「日野市障害者問題を考える会」からめばえの会に委託されて、めばえの会の学生を講師として障害を持ったそれぞれの学級生の家に直接訪問し、トレーニングやお出かけをしています。移動教室は年に一回行われる訪問学級の旅行のことを言います。今年は山梨県まで行き、学級生とともに山梨の自然を感じてきました。普段の活動では外出する機会はありませんので、こうして自然を身体で感じることは学級生にとって良い刺激になったのではないのでしょうか。

## 今回のボランティア活動報告会

失礼ながら、正直言ってあれほど活動報告会に人が集まり、賑わっているとは想像していなかったもので、ボランティアセンターに入ったときに少し気圧されてしまいました。しかし、このことは私たちのサークルや他のボランティア団体の活動が、多くの人たちから注目されていることの証明なのだとし嬉しく思いもしました。

学長や先生方が多数いらしていたので、これは堅い雰囲気になるのではと心配しておりましたが、席の配置も工夫されており、市民活動センターから来ていただいた枝村さんのフランクな人柄もあってその心配も杞憂に終わりました。

と言っても私はあまりアドリブのきく人間ではないので、結局私たちの発表は面白味のないものになってしまったのではと思いますが、私たちの行っている活動について最低限のことは伝えられたのではないのでしょうか。

私たちの発表はともかく、他の団体の活動報告はどれも聞いていて興味深いものばかりでした。各団体とも様々な問題意識や興味関心があり、行動力に富んでいるなという印象です。教

育研究部は夏休み中に4回もキャンプ・合宿があり、数ヶ月前にできたばかりのひまわりというサークルも早速活動報告会に参加しており、その積極さに終始感心しきりでした。

その中でも個人的に興味を持ったのは、環境に関するボランティアが盛んに行われていたことです。私は専らハンディキャップをもつ方々と接するボランティアをしているので、環境ボランティアというものには全く疎かたのですが、緑地の保全活動・ボトルキャップ集め・エコキャンパス作りなどのお話を聞かせてもらい、多様な分野でボランティアが活躍していることを改めて認識させられました。これからの時代、エコロジーの重要性はさらに増していくものと考えられ、小さなことから地道に活動が続けている方たちはとても立派であり、私ももっと頑張らねばという気になります。

今回の活動報告会はボランティア団体同士の活動について知るだけでなく、互いの交流を促し、刺激を与えあう良い機会になったのではないのでしょうか。今後もぜひ継続していただきたいと思います。

## 子ども会活動、学習会活動で43年

～元気いっぱいの笑顔がつながっています～

教育研究部 戸倉裕介（心理・教育学科3年）

私たち教育研究部は、この夏に子ども会活動と、夏合宿を行いました。教育研究部は、今年で43年目を迎える部活動で、主に子ども会活動と学習会活動を行っています。その中の子ども会活動についてお話しします。私たちは5つの子ども会と関わらせていただいています。

明星坂付近に住んでいる子どもたちが会員の「わかば子ども会」では、サマーキャンプを8月6～7日に「ゆずりはら青少年自然の里」というところで行いました。ここは山梨県にあり、自然豊かな山の中にあります。一日目は多摩動物公園に集合し、バスで施設の近くまで行きま

した。そこから階段を下り、道を上ると施設に到着です。体育館のようなところで昼食を食べた後、施設の近くにある川で川遊びを行いました。少し冷たかったですが、みんな元気に遊んでいました。その後、体育館で閉じ込めシートを作りました。絵を描いた後、押し花をのせてシートを閉じると完成です。絵葉書のように使えるので、みんな自分の家送到了。夕食を食べ終えてから、他団体と合同でキャンプファイヤーを行い、その後花火を行いました。はじめは班に分かれて手持ち花火をし、その後全員で噴出し花火を楽しみました。二日目は、朝に希望者で虫取りを行いました。あまり取れなかったのですが、朝のよい散歩にはなったと思います。朝食を食べた後、ビンゴゲームを行いました。これは、施設付近の自然を見つくと穴をあけられるゲームです。例えば鳥の鳴き声、キノコが生えているか、などです。その後、昨日と同じ場所で川遊びを行いました。流れが急でしたが、けが人も出ず、楽しく遊べました。その後昼食を食べてからバスで多摩動物公園まで帰り、解散しました。

明星坂を下りて、向かいの山を登ったところに住んでいる子どもたちが会員の「つくし子ども会」では、サマーキャンプを8月24~25日に「高尾の森わくわくビレッジ」というところで行いました。一日目は、程久保駅前に集合し、バスで施設へ向かいました。昼食を体育館で食べ、その後にゲームを行いました。遊びが終わったら、カレー作りをみんなで行いました。子どもが切った野菜を子どもがおこした火で炒め、子どもが洗ったお米を子どもがおこした火で炊きました。薪割にも挑戦し、みんな怪我もなく上手に割れました。カレーをみんなで食べた後、肝試しを行いました。あいにく雨が降っていたので、外を少し歩いた後体育館に行くようなルートでした。それでもみんな怖がったり楽しんだりしていました。その後、雨の中のテントで

寝ました。都会だとあまり聞こえない、雨の音を聞くよい経験になったと思います。二日目は朝食を食べた後、スイカ割りを行いました。食べ終わると、炊さん場とトイレを掃除しました。その後体育館にてゲームを行いました。遊び終わると昼食を食べ、バスで程久保に帰り、解散しました。

夏に学生主催で、明星子ども会という子ども会を行っています。今年は8月19・20日の二日間行いました。東京都あきる野市にある、「小宮小学校」の子どもが対象です。一日目にはゲームを行った後、招待状を作りました。この招待状は、小宮小学校がある地域の自治会長さんを子ども会に招待しておもてなしをしようというものです。自治会が6つあるので、6人全員に向けて招待状を作りました。招待状が完成した後、ウォークラリーとして小学校の最も近くにある自治会長さんのお宅を訪問しました。そこで招待状を渡しました。昼食を食べ、少し歩いたところにある川へ川遊びに行きました。泳いだり飛び込んだりして、みんな元気に遊んでいました。その後、スイカ割りを行いました。割れたらみんなで分けて食べました。川で冷やしていたので、とても冷えていました。二日目はカレー作りを行いました。自治会長さんに食べてもらうために、みんなで協力して作りました。昼食を自治会長さんと一緒に食べ、工作を行いました。押し花をはさんでラミネート加工を施し、しおりを作りました。その後キャンプファイヤーを行い、解散しました。

夏合宿は8月29~31日の三日間行いました。神奈川県にある、「足柄ふれあいの村」というところで行いました。自然がとても豊かなところでした。内容は、ゲーム講習で、マンネリ化を防ぐために新しいゲームをみんなで考える。お悩み相談で、主に一年生の悩みを聞く。その他、星友祭に向けての準備をしました。また、星友祭後に代が変わるので、来年度についての話し

合いも行いました。

夏のボランティア活動は以上ですが、私たちの活動はまだまだまだたくさんあります。興味を持

っていただけた方は、星友祭にて活動を発表していますので、ぜひ足を運んでください。お待ちしております。

~~~~~

## 八王子の山で緑の保全活動体験

～ 集合！東京の緑を増やし隊～

緑の保全活動 嶋田 誠文（環境システム学科2年）

こんにちは！まさかこのような形で皆さんにご報告をさせて頂く機会があるとは思わなかったので、緊張感みです。私達からは9月27日（土）に行ってきた「八王子の山で緑の保全活動体験」というボランティアについてご紹介をさせて頂きたいと思います。

「八王子の山で緑の保全活動体験」は東京都環境局・明星大学・株式会社荏原製作所・NPO法人 都民ボランティアの池の沢に虫を増やす会の皆さんと、多くの皆さんが参加しました。そんな中、我々明星大学からは12名が参加しました。この記事はその12名を代表しての記事となります。

緑地保全を行った場所は八王子館町緑地保全地域です。里山保全を目的として活動をしてきました。里山、とただ単に書いただけだとイメージがつかみ難いかもしれませんね。イメージ的には昔ながらの田舎での山の暮らし...みたいに思っていただければいいと思います。もっと詳しくすると田んぼがあって、畑があって林檎やぶどうやサンクランボ等の果樹園があって、里の真ん中には川が流れて、皆のんびりと過ごしているような、大体そんな感じの所のことをいいます。昔は里の人達と里山はやはり密接に関係していて、これからの寒い時期なんかは木を切って薪を炭にして、お風呂や暖炉や囲炉裏なんかを使っていたそうです。木を切り残った

切り株から新しい芽が出てきます。それを萌芽更新といい、萌芽更新をすると苗からよりも早く育ち、10～15年で切れる木となりその木を里の人達は使っていました。さすがに今ではそこまで昔の里山ではなく山や公園等の形で存在しています。



活動は大きく分けて草刈りと木の伐採を行いました。草刈りはまだしも木の伐採が緑地保全になるのか？とお考えになる方もいらっしゃるかも知れませんね。実は！山（と言うか自然）というものは意外に人間も手間をかけなければならぬのです。森林の樹木が生長しすぎると大きくなりますね。大きくなった樹木は日光をさえぎって近くにある他の植物の成長を阻害してしまいます。もっと悪いと枯れてしまうこともあり、代わりにあまり山にとっていい植物でないものが生長してきます。例えば危険な昆虫を引き寄せてしまうものや、地面を完全に覆って地表に日光が届かなくするように雑草が生え

てきたりと  
かするんで  
す。ですか  
ら定期的に  
山に入って  
大きくなり  
すぎないよ



うに木を切って小さな芽が枯れてしまわないように草刈りをして...と物凄く手間をかけないと、緑豊かで四季の移り変わりもよく、動物がたくさんいて、きれいな小川が常に流れているような、そんな山はできないのです。見た目には中々分からないのですが、手間をかけて手入れをすることは地球の環境にもとてもいいことです。ですが現状では、ボランティアの方々が努力をしてようやく山が少し整備出来た、といった状態です。もう山の中に住む人もほとんどいなくなってしまって基本的に人手が足りません。

こういった事情から草刈りと樹木の伐採を行ってきました。草刈りは植樹され数年経った芽の周りに生えている雑草を刈っていきました。地味な作業ですが慣れてくると意外と楽しくなっていますよ。ですが、腰が痛くなるというのは迷信じゃなかったですね。

樹木の伐採はニセアカシアという種類の伐採を行いました。ニセアカシアはよく蜂蜜を採る際に植えられる木ですね。それはつまり蜂がた

くさんいると言うことで、中々怖い思いもしました。ただニセアカシアには大きな問題がありまして根が弱いんです。そのおかげで倒れてしまって他の樹木を傷つけるのです。そこで伐採がおこなわれたのですが、大変でした。根が弱いとか言ってもやはり木。のこぎりを使ったのですが切れてくれなくて、何人も交代でようやく1本切り倒すといった具合でした。ただ、倒れたときの迫力は凄まじいです。何メートルも離れているのに地面が揺れるんですよ。と言っても万が一にも潰されるとたんこぶじゃすまないかもしれないので、わりと必死です。

さて、それではこのあたりで、皆さんへのご報告を終わりとさせていただきます。どうでしたか？ちゃんと出来ているといいのですが。それではまたこういった機会がありましたらがんばって行きたいなと思いますので、よろしくお願ひします。長々とお付き合いくださいましてありがとうございました。



## 「ECO idea」

Idear 研究会 坪内大二郎（機械システム工学科3年）

私たちは、大学内でペットボトルのキャップを集めると途上国の子供にワクチンが届けられるという“エコキャップ運動”をやっています。

今までに50kgくらいのキャップを集め、25人分位のポリオワクチンを届けることができます。ご協力ありがとうございました。また、キ



ヤップについているキャンペーンのシールは、はがしていただくと有難いのですが、私たちはその自然と大量に集まるキャンペーンシールをせっせと応募し、コカコーラの「10秒に一人当たるTシャツ」を12着ゲットしました。他は、外れてしまいました。

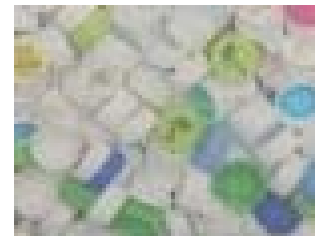
I研の基本理念は「ideaを形にしよう」と「学生同士をつなげよう」ということですが、今後の方針として、地球温暖化や環境保全、生物多様性などのエコな分野に取り組んで行こうと考えています。エコなideaやイベントを考えたり、環境ボランティアに積極的に参加し、自分たちも学んでいくとともに、エコな情報を発信していきたいと考えています。

エコとボランティアとどういう関係があるのかというと、「私たちの意識やライフスタイルを変えれば助かる命がある」という点です。たとえば、私たちが海外から多くの食べ物を輸入し、多くの食べ物が手もつけられずに捨てられているという問題。飢え死にする人がいる一方で、

こういう矛盾が起きているということは、仕方がないで済むことだろうか。もっと私たちは真剣に考えて行動していくべきだと思います。環境問題はグローバルに考えが広がっていくテーマです。ideaを出すフィールドがとても広いです。

私たちは、まずは「自分たちにできる場所できると事から変えて行きたい」と考えています。夏休中の活動は、文化祭で「食堂の食器を使った模擬店の皿のリユースシステム」を星友祭に提案しました。結果は、駄目でしたが私たちの中では、いい経験になりました。そして、今抱えている案件は、「大学内に畑をつくる」と「蛍の観察会」です。また、「マイはし」を作りたい人はクラブで声をかけてください。工作のキットがあります。

これからのI研の活躍を楽しみにしててください。



## 今年の夏誕生した「ひまわり」

ひまわり 中村翔子（心理・教育学科2年）

ひまわりは、今年の夏休み前にできたばかりのサークルです。明星大学から歩いて5分程のところにある七生福祉園の低年1寮という所で、毎月2回・土曜日の午前10時から午後12時まで活動しています。七生福祉園低年1寮は、3

歳から小学校3・4年生くらいまでの自閉症、ダウン症などの知的障がいのある子どもたちが、家の代わりとして共同生活を送っている所です。

9月27日（土）に1回目の活動をしてきたので、報告させていただきたいと思います。こ

の日は3つのプログラムを行いました。1つ目は、自己紹介をしようという事で『あなたのお名前は?』という歌に合わせて1人ずつ名前を言い、学生手作りの名札を付けました。2つ目は、体を動かそうということで、トトロの『さんぽ』の歌に合わせて学生が考えた体操をしました。3つ目は、パラシュートをしました。パラシュートとは、明星大学の特別支援プレイルームにあるもので、1枚のカラフルな布を子ども達の上でひらひらさせたり、がさがさせたり、また、布の上にカラーボールを入れて動かしたりすることにより、視覚・聴覚を刺激し、特別な支援を必要とする子ども達に良い効果があるというものです。このパラシュートが27日の活動プログラムの中では1番人気があった

ので、これからもひまわりの活動の中に取り入れていきたいと思っています。以上が27日のプログラムです。初めての活動、そして学生と子どもが初対面ということもあり、学生も子どもも緊張していたようですが、最後の方にはお互いに打ちとけあってとても楽しく、また、充実した時間を過ごすことができました。

ひまわりでは、学生達が子どもそれぞれの障がいや性格を理解した上で、“子ども達にとって楽しいと感じられる様なプログラム”を第一に考えていきたいと思っています。これからも、子ども達に“楽しい!”“おもしろい!!”と感じてもらえるように、学生達でアイデアを出し合って、楽しく活動していきたいと思います。

\*\*\*\*\*

特集[コメント]

## 夏の活動報告会に参加させていただいて

市民活動センターたちかわ 枝村珠衣

今回は報告会にお誘いいただき、ありがとうございました。それぞれの代表の方がくださったお話の息づかいから「とてもいねいに人と関わって活動されている」誠実に問いをたてながら進められている」ことが伝わってきました。

めばえの会さんの報告をうかがって、「継続して来てくれている学生さんのことを、活動先のみなさんはきっと顔を思い浮かべながら心待ちにされているんだろうな」と感じました。グループの方が「ホントに楽しいんです」というメッセージを発信されていましたが、あの方が活動先で関わった誰かさんも、どこかで「ホントに楽しい!」とまた誰かに発信されているのだらうと思います。

教育研究部さんのお話からは、子どもたちのためにプログラムを緻密に考えられている様子が伺えました。安全面について迷われたり、ゲーム講習で新しいアイデアを引き出し合われたり。今、目の前にいる子どもたちは、ただただお兄さん・お姉さんが一緒にいてくれたことが嬉しかったのだと思いますが、いつの日か「こんな風に自分たちのことを慮ってくれていたのだな」とまた喜びを深める時が来るのでしょうか。

緑の保全活動に参加されたみなさんのお話からは、「1日の活動を通して、こんなにも多くのことを学生さんが吸収されたことを、一緒に活動された企業・NPO・行政の方たちは誇りに思うだろうな」と感じました。普段、私は企業・NPO・行政の大人たちから「参加してくれる学生がい

るといいなあ」という声をいただくことが多いのですが、その訳が腑に落ちました。

idear 研究会さんからの報告は、まさにアイデアの宝庫!!聴いている側をそわそわワクワクさせるものでした。日々、いろいろな人と相乗りができる具体的な提案が続きました。この勢いが物事を動かすのだと思います。「エコキャンパスづくり」の旗を掲げていらっしやいましたが、学内にとどまらず、いろいろな人を巻き込める魅力的な提案でした。

ひまわりさんの活動は、まさに生まれたてほやほや。これから自由に活動のデザインが出来ます。ひとりの「やってみようかな」がみんなの「やってみようかな」に広がったのですね。

報告会終了後に、めばえの会さんとお互いの人材についてしっかり情報交換されていました。またまた広がりそうです。

活動の様子は多彩ですが、みなさんに共通しているなど感じることもありました。ひとつは、みなさんが周囲のチカラを引き出しているとい

うことです。子どもたちからは「こんなお兄さん、お姉さんになりたい」、上の世代の方からは「大事なことを次の世代につなぎたい」と駆り立たせています。企業や NPO、行政に属する大人は、自身の活動の責任を再確認したことと思います。みなさんが世代とフィールドを超えた、よい連鎖をつくる接着剤となっています。

もうひとつは、コミュニケーション力をつける貴重な体験を積み重ねていることです。相手と自分を置き換えながらコミュニケーションを取るチカラを備えていると社会に出た時に明確な差がつきます。品位あるコミュニケーションの発信者となり、やはりよい連鎖をつくる接着剤となり得ます。

私自身、今回、学生のみなさんの報告に参加させていただいたことで、人との関わりにおける大切なことを再確認させていただきました。貴重な時間を一緒にさせていただき深く感謝いたします。

ありがとうございました。

\*\*\*\*\*

## 特集[まとめ]

# 出会い、ふれあい、そして学びあい

～ 学生ボランティア活動に期待すること～

センター長 渡戸一郎

初めての学生ボランティア活動報告会に、お忙しい中、近隣住民やボランティア活動推進機関の方々や、小川学長はじめ大勢の教職員が参加して下さり、厚く御礼申し上げます。

学生諸君のボランティア活動の報告を聴いて、さまざまな出会いとふれあい、そして学びあいが着実に進められていることが改めて確認でき、大変心強く思っています。また、プレゼンテーションの工夫もあり、楽しく過ごさせてもらい

ました。

柔らかい感性をもつ青年期に、大学の授業とは異なる社会的場面で、多様な人びととの出会いや協働を通じて多くを学びとることは、皆さんのこれからの人生にとって経験になると思います。ボランティア活動は「自発性(主体性)」、「無償性(非貨幣的価値)」、「利他性(社会性)」の3つの要素からなると定義されてきましたが、今日では「自己実現性」や「先駆性」、「創造性」

も重要な要素として強調されています。

一人ひとりの「出会い」や「気づき」からボランティア活動はスタートします。そして、情報収集を通じて問題意識を深めながら、仲間(共振する人や協働する人)を増やしていくことで、活動の形ができていきます。また、すでにあるボランティア活動に参加してみるのもよいと思います。自分の関心やスタイルにあった活動を探してみてください。

統合失調症をはじめとするさまざまなハンディをもつ人びとの支援を行っている「つくりこの家」という市民団体があります。数年前、この団体では『わけるとふえる』というタイトルの25周年記念誌を刊行しました(やどかり出版)が、日頃から私はこの言葉を大切に

たいと思っています。

私たちは普通、「わかる」と「へる」と考えがちです。しかし、よく考えてみると、「わかる」ことは「わかちあう」ことであり、実は「ふえる」ことにつながっているのです。そしてそれを通じて私たちは「学びあい」、自分が「変わる」、あるいは相手を「変える」ことにもなります。

枝村さんのコメントにあったように、ボランティアは所属集団の地位や役割に縛られず、相手と利害関係を持たない分、風通しのよいコミュニケーションをとりえます。そうした豊かなコミュニケーションを土台に、皆さんがより充実したボランティア活動を進められることを期待しています。

\*\*\*\*\*

## センター活動報告

ここでは2008年5月12日に当センターが開設されてからの主な活動と、来室者数、学生教育ボランティア応募者数、ボランティアセンター団体登録の状況について報告します。

### 2008年5月からの主な活動

| 月  | 日  | 行事等                                               |
|----|----|---------------------------------------------------|
| 5月 | 12 | ボランティアセンターオープン                                    |
|    | 13 | ボランティアサークル「めばえの会」の代表者来室                           |
|    | 15 | ボランティアサークル「どろんこの会」の代表者来室                          |
|    | 20 | 「教育研究部」代表者来室                                      |
|    | 21 | 「朝日キャンプ」代表者来室                                     |
|    | 28 | ボランティア募集要望書を頂く                                    |
|    | 29 | 「どろんこの会」の代表者来室                                    |
| 6月 | 2  | Visionの取材                                         |
|    | 3  | 「朝日キャンプ」説明会開始(6/3,11,17,25:18-19時 6/10,17,24:昼休み) |
|    | 5  | 「Idear研究会」来室                                      |
|    | 6  | 「ひの社会教育センター」来室                                    |

|    |    |                                                                 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------|
|    | 9  | 「Idear 研究会」ペットボトルキャップ回収開始（6月4.5キロ回収）<br>センター会議、府中市「オンリーワン」来室    |
|    | 10 | 七生学校公開参加                                                        |
|    | 11 | 「南平児童館」館長来室                                                     |
|    | 13 | 第1回ボランティアセンター運営委員会、第1回学生VG会議                                    |
|    | 19 | 学生教育ボランティア2次募集開始（6/19-7/1）（社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩）                |
|    | 20 | 多摩市「ボスカ」、「アロマ」来室                                                |
|    | 23 | ボランティアサークル「SMILY」の代表者来室                                         |
|    | 25 | 青梅市「めばえ」来室、センター開設ご挨拶状発送（63件）                                    |
|    | 27 | 新潟県南魚沼市「コシヒカリの郷子ども自然体験村実行委員会」来室、                                |
|    | 27 | センター会議、七生特別支援学校平井先生来室                                           |
| 7月 | 2  | 多摩地域VC等ご挨拶回り（日野、立川）                                             |
|    | 9  | 多摩地域VC等ご挨拶回り（多摩）                                                |
|    | 11 | 第2回学生VG会議、車椅子を社会福祉士実習室から借用                                      |
|    | 14 | Idear 研究会ミーティング                                                 |
|    | 15 | 第2回ボランティアセンター運営委員会                                              |
|    | 16 | ホテルに関する学生打合せ                                                    |
|    | 17 | 台東区「日本子守唄協会」来室                                                  |
|    | 24 | 八王子市社会福祉法人武蔵野会「すぎな愛育園」来室                                        |
|    | 26 | 「第2武蔵野台自治会」来室：程久保夏祭り（8/16,17）について打合せ<br>教育研究部中心に学生7名参加          |
|    | 28 | 多摩市要約筆記サークルとノートテイキング講習会について打合せ：ガイダンス（9/18,22）講習会<br>（10/15）実施予定 |
|    | 29 | 多摩地域VC等ご挨拶回り（八王子）                                               |
|    | 31 | 日野市「ひの市民活動団体連絡会」来室                                              |
| 8月 | 5  | 「多摩ボランティアセンター永山分室」来室                                            |
|    | 6  | 「ひまわり」来室                                                        |
|    | 7  | 日野校「学生情報打合せ」                                                    |
|    | 8  | 「町田ボランティア」へご挨拶                                                  |
|    | 27 | 日野市ボランティアセンターへエコキャップ（5.1Kg）を届ける                                 |
| 9月 | 4  | 「多摩ボランティアセンター永山分室」訪問、「第2武蔵野台自治会」来室                              |
|    | 16 | 学生教育ボランティア1次参加者2名をネットワーク多摩取材（国コミ3年生、教育1年）<br>第3回ボランティアセンター運営委員会 |
|    | 17 | 「ひまわり」VCでミーティング                                                 |
|    | 18 | ノートテイクガイダンス「ノートテイク紹介」参加者12名                                     |
|    | 19 | 第3回学生VG会議、学生教育ボランティア募集開始（9/18～10/2）                             |
|    | 22 | ノートテイクガイダンス「ノートテイク紹介」参加者15名                                     |

|         |    |                                                                              |
|---------|----|------------------------------------------------------------------------------|
| 10<br>月 | 2  | 2008「夏の学生ボランティア活動報告会」参加者 40 名（学生 19、学外 7、教職員 14）                             |
|         | 7  | 小平市「あさやけ作業所」来室                                                               |
|         | 9  | 世田谷区「全国移動ネットワーク」来室、三鷹市「なかよし教室」来室                                             |
|         | 10 | 「学生情報センター」来室：全国学生ボランティア大会参加依頼について<br>日野市「ひの炭やきクラブ」「水と緑の日野・市民ネットワーク（みみネット）」来室 |
|         | 13 | 「へき地教育研究会」ミーティング                                                             |
|         | 15 | 「ノートテイク 1 日講習会」参加者 25 名（学生 22、教職員 3）                                         |
|         | 16 | 「めばえの会」ミーティング                                                                |
|         | 20 | 「へき地教育研究会」ミーティング                                                             |
|         | 21 | 「へき地教育研究会」ミーティング                                                             |
|         | 22 | 「ひまわり」ミーティング                                                                 |
|         | 24 | 「めばえの会」ミーティング                                                                |
|         | 25 | 日野市「日野療護園」訪問、日野市「南平児童館ぶらねっと」来室                                               |
|         | 27 | 「へき地教育研究会」「Idear 研究会」ミーティング                                                  |

#### 来室者数

|           |      |          |              |
|-----------|------|----------|--------------|
| 5月（5/12-） | 60人  | 開室 14 日間 | 1 日平均 4.3 人  |
| 6月        | 154人 | 開室 21 日間 | 1 日平均 7.3 人  |
| 7月        | 230人 | 開室 23 日間 | 1 日平均 10 人   |
| 8月        | 82人  | 開室 10 日間 | 1 日平均 8.2 人  |
| 9月        | 260人 | 開室 19 日間 | 1 日平均 13.6 人 |
| 10月       | 461人 | 開室 23 日間 | 1 日平均 20 人   |

#### 学生教育ボランティア( )応募者数

|            |     |
|------------|-----|
| 第 1 次（4月）  | 18名 |
| 第 2 次（6月）  | 5名  |
| 第 3 次（10月） | 5名  |
| 合計         | 28名 |

( )「学生教育ボランティア」； 社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催している。ネットワーク多摩に加盟している多摩地域の 40 大学が、加盟行政の小・中学校の教育現場で「お兄さん・お姉さん」先生として授業のサポートやクラブ部活の補助などをしてくれる大学生のこと。

ボランティアセンター団体登録

|    |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                      |
|----|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 学内 | 8 団体  | 教育研究部<br>どんご<br>Idear 研究会<br>ひまわり                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | めばえの会<br>スマイリー<br>朝日キャンプ<br>へき地教育研究会 |
| 学外 | 17 団体 | 障害児放課後活動クラブオンリーワン<br>NPO 法人 Filo<br>NPO Hope Scoop Asia<br>「めばえ」の会<br>コシヒカリの郷南魚沼市自然体験村実行委員会<br>日の出町ボランティアセンター<br>NPO 法人日本子守唄協会 東京多摩支部<br>社会福祉法人 武蔵野会<br>ひの市民活動団体連絡会（ひの市民活動支援センター）<br>日野市立つばさ（自立訓練・就労）<br>日野市立やまばと（地域活動支援）<br>NPO 法人なかよし会 なかよしクラブ<br>あさやけ作業所<br>NPO 法人全国移動サービスネットワーク<br>ひの炭やきクラブ<br>水と緑の日野・市民ネットワーク（みみネット）<br>児童擁護施設れんげ学園 |                                      |

明星大学ボランティアセンター運営委員会の構成

| 役 職                   | 氏 名                             | 所 属                                                 |
|-----------------------|---------------------------------|-----------------------------------------------------|
| センター長                 | 渡戸 一郎                           | 人文学部 人間社会学科                                         |
| 副センター長（日野校）<br>"（青梅校） | 吉澤 秀二<br>菱山覚一郎                  | 理工学部 環境システム学科<br>一般教育（青梅校）社会科学                      |
| 学生部長                  | 小鍛冶徳雄                           | 理工学部 電気電子システム工学科                                    |
| センター長が必要と認める者         | 垣内 国光<br>島田 博祐<br>黒岩 誠<br>富田 一弘 | 人文学部 人間社会学科<br>人文学部 教育学専修<br>人文学部 心理学専修<br>学生課長     |
| 事務局長                  | 荒井 徹                            |                                                     |
| 専任職員                  | 宮崎 茂男<br>畑野 理美<br>増田 知宏         | 日野校 ボランティアセンター課長兼務<br>日野校 ボランティアセンター<br>青梅校 教学課学生担当 |

## 編集後記

本年の5月に誕生したボランティアセンター。学内からのエントリーは、ボランティアに関心をお持ちの個人のご参加以外に「めばえの会」、「Idear 研究会」を始め今年の夏にできたばかりの「ひまわり」などの8団体、近隣地域からは「ひの市民活動団体連絡会」など17団体からの登録があり、日々増加の傾向にあります。

私は今年の10月からボランティアセンターに勤務させて頂いておりますが、毎日のように来室してエコキャップを一生懸命に洗って整理して下さる学生、さらには「夏の学生ボランティア活動報告会」や「ノートイク(要約筆記)1日講習会」に参加された学生の皆さんの爽やかな姿勢や社会貢献への熱い情熱に深い感動を味わっています。ボランティアセンターを通じて『ボランティア活動の拡大(仲間作り)と継続(良き伝統の継承・後進育成)』の文化が築かれることを願っています。

(ボランティアセンター課長 宮崎茂男)

「きらボ」がオープンして5ヶ月が過ぎました。「きらボ通信」を通じて「きらボ」の活動をいろいろお伝えしたいと思っています。自分の意思で自由になる時間が多くある、貴重な学生時代にこそ、自分の中にある、何かの役に立ちたいという気持ちを見つけ、育て、新しいやりがいを探して下さい。「助ける」こと、「助けられる」ことを通じていつの間にか、一緒に楽しんでしまっている……そんな不思議な魅力がボランティアにはあります。どうぞ、いつでもお気軽に「きらボ」にお立ち寄りください。スタッフ一同心よりお待ちしております。

(ボランティアセンター 畑野理美)

### きらボ通信 / 創刊号

2008年11月1日発行

#### 明星大学ボランティアセンター

##### 日野校

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 明星大学日野校 22号館 203 (大学会館 2階)  
Tel:042-591-6231 (直通) Fax:042-591-6261 E-mail: kiravo@gad.meisei-u.ac.jp

##### 青梅校 (青梅教学課 (学生担当))

〒198-8655 東京都青梅市長淵 2-590 明星大学青梅校 共用棟 B館 1階 J-112 教室  
Tel:0428-25-5178 (直通) Fax:0428-25-5181 E-mail: kiravo@agora.meisei-u.ac.jp